

令和４年８月１５日  
国土交通省  
不動産・建設経済局建設業課

「建設業法第二十七条の二十三第三項の経営事項審査の項目及び基準を定める件」  
及び「経営規模等評価の申請及び総合評定値の請求の時期及び方法等を定めた件」  
の一部改正案に関する意見募集の結果について

国土交通省では、令和４年６月２９日から令和４年７月２８日まで、「建設業法第二十七条の二十三第三項の経営事項審査の項目及び基準を定める件」及び「経営規模等評価の申請及び総合評定値の請求の時期及び方法等を定めた件」の一部改正案に関する意見の募集を行いましたところ、計８件のご意見をいただきました。

寄せられたご意見の概要及びそれに対する考え方を以下のとおりとりまとめましたので、公表いたします。

今後とも国土交通行政の推進に御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(別紙)

主なご意見及び国土交通省の考え方

|   | 主なご意見（概要）                                                                                                                             | 国土交通省の考え方                                                                                                                                                                                                               |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"><li>・えるぼし認定、くるみん認定、ユースエール認定等については、実施している事業者が少なく、加点される事業者が偏るのではないか。</li></ul>                        | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 将来の担い手確保の観点からも、建設業の働き方改革は急務となっております。業界全体のイメージアップのためにも、ワーク・ライフ・バランスに関する取組については、業界全体として推進することが重要であり、当該取組を客観的に評価することができる指標として、えるぼし認定、くるみん認定、ユースエール認定の取得状況を評価することといたしました。</li></ul> |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 建設キャリアアップシステムに関して、「軽微な建設工事等以外の全ての建設工事又は軽微な建設工事以外の全ての公共工事」とあるが、「全て」をどのように行政側が把握するのか。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 別途通知（経営事項審査の事務取扱いについて（平成 20 年国総建第 269 号））で定める様式による誓約書及び情報共有同意書の提出を求めた上で、CCUS上に蓄積された現場情報から適切な措置が実施されていることを確認する予定です。</li></ul>                                                    |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 建設機械の保有台数に関して、キャブオーバーは加点対象にならないのか。</li></ul>                                                  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 建設機械の保有台数の項目では、地域防災・災害対応の観点から、実際の災害対応において活躍している建設機械について、建設業団体等へのアンケート結果も踏まえ、評価対象を拡大することといたしました。災害対応で活躍する建設機械については、適切に評価するための検討を引き続き進めてまいります。</li></ul>                          |

※ 掲載しなかったご意見やご質問についても、今後の施策の推進に当たって、参考にさせていただきます。